

教訓

- 技術者と一般人の間に生まれた知識のギャップを埋めよ！

事件の概要 (岡崎市立中央図書館大量アクセス事件)

- 2010年5月25日、愛知県警は岡崎市立中央図書館の新着図書データベースに計3万3000回のアクセスをして、閲覧をしにくくしたとしてホームページ作成会社社長を偽計業務妨害の罪で逮捕した(朝日新聞2010年5月26日朝刊)。容疑者はプログラムにより自動で図書館のサーバーから情報を取得していた。その際のアクセス頻度は1秒に約1回だった。(<http://librahack.jp/> より)

警察の対応

- 警察はDoS攻撃だと思っていた。
- しかし、実は“1秒に1回”という頻度はかなり安全であり、またwebの応答を受けてからリクエストを送るようにしていた。そのため通常ならばサーバーに不具合が生じることはなかったはずである。
(<http://librahack.jp/>より)
- ここに警察と技術者の間に通信スピードに関するスケールの認識の違いがあった。

まとめ

- 今回の事件では警察と技術者の間の問題であったが、我々もこういった事件に巻き込まれたときのため情報機器に関する知識を持っておくべきだろう。
- 一般人が知ろうとするだけでなく、技術者自らが社会に対しその技術に対する説明をすべきだろう。